



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 田中、中原

(電話) 06-6949-6435

令和8年6月9日

船員確保チャレンジ事業 児童養護施設と連携した船員確保対策事業を 大阪南港で実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業ですが、船員の確保・育成が喫緊の課題となっています。そこで、近畿運輸局と各海運組合事務局およびその傘下会員事業者を構成員とする近畿内航船員対策協議会では、児童養護施設の児童を対象に、海の大切さと船員の仕事について学ぶ海洋学習や船舶の操船シミュレーター体験、そして普段見ることのできない船舶の船橋等施設などの船内の見学に合わせ、船員の方から仕事内容等について直接お話を聞くことにより船員という職業に興味を抱いていただくことを目指す事業を計画し、日本内航海運組合総連合会が行っている「船員確保チャレンジ事業」に応募したところ、採択されました。

採択された事業は、5月から7月にかけて3施設と連携して実施する予定としておりますが、今般、関係各位のご協力を賜り“社会福祉法人 甲賀学園 鹿深の家”と実施しました事業の内容をお知らせいたします。

実施日： 令和8年5月23日（土）
連携施設： 社会福祉法人 甲賀学園 鹿深の家
 児童 26名、施設職員 13名
講師： 近畿内航船員対策協議会 白石 紗苗 氏
協力： 株式会社商船三井さんふらわあ
 商船三井ミュージアム「ふねしる」



「C to Sea プロジェクト」
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！
海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

近畿内航船員対策協議会（会長：林 一男 田渕海運(株)取締役）は日本内航海運組合総連合会が行う船員確保チャレンジ事業の採択を受け、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢の一つに入れてもらえることなどを目的に児童養護施設と連携した船員確保対策事業を実施しています。

児童養護施設の児童を対象にチャレンジ事業を実施しました。

令和8年5月23日（土）滋賀県甲賀市の社会福祉法人甲賀学園鹿深の家の入所児童26名と施設職員13名の計39名を対象に、チャレンジ事業を実施しました。



パネルを使った学習

海洋学習は近畿内航船員対策協議会の構成員である白石海運（株）の白石代表取締役専務が講師を務められ、講師手作りのパネルと船の形をしたブロック玩具を用いて行われました。

手作りパネルを用いた学習では、海運および船員の仕事が身の回りの生活にどのように関わっているかを、輸入の主要品目を当てるものから海賊が出た時の撃退方法までクイズ形式により行われることで、自然に児童が興味をひかれるものとなり、児童の積極的に参加により賑やかな雰囲気

気で進んでいきました。

また、船の形をしたブロック玩具を用いた学習では、船の玩具と文鎮を実際に水に浮かせる実験を通して「どうして大きくて重い船が水に浮くのか？」と問いかけられることにより、児童に考えていただく工夫を凝らされていました。

そして、船に乗って働く人々は、ブリッジに立って船を動かす人（航海士）、エンジン等の整備を行っている人（機関士）、船員の料理を作っている人（司厨長）がいることを紹介され、女性も船員として活躍していることを伝えられました。

最後に講師から、「この後のふねしるでの体験やさんふらわあの船内見学でも、疑問に思ったことを質問して、海のこと、船のこと、船員のことに関心をもってくれたら嬉しいです。」とメッセージを送られ、海洋学習は終了となりました。



船の玩具を使った学習

その後、商船三井ミュージアム「ふねしる」に移動し、館内説明を受けた後、8班に分かれて操船シミュレーターやガントリークレーンのシミュレーター等の体験が行われました。操船シミュレーター体験は、船の種類や時間帯、天候等を選んで体験する事ができますのですが、小型船の設定では揺れも非常に大きく、夜間運航の設定では視界が悪くなり、荒天の設定では操船は本当に船酔いしそうなくらいの臨場感となり、児童も操船に夢中になっていました。



操船シミュレーター体験

そして、最後に「さんふらわあ」の船内見学です。人数の関係上2班に分かれて客室、船橋を船内見学しました。客室の見学では、スイートやプライベートなど様々な種類の



さんふらわあの船橋

部屋とそれぞれの部屋の設備を見学しました。児童からは、先ほど通った見学ルートではないかとの声が漏れるくらいであったことから、船内を広く感じたと思われま

す。次に、普段入ることのできない船橋に入って、現役船長から船の説明や船内での仕事の説明、船員になるための方法などについてお話をしていただき、児童は先ほどの操船体験を思い出しながら聞いていました。その後は、船長への質問する児童や望遠鏡をのぞき込み拡大率の高さに驚きあう児童など、それぞれに船橋でのひと時を楽しんでいました。

近畿運輸局では、今後も近畿内航船員対策協議会と連携して、海運の安心かつ安全な輸送に活躍する船員の確保のため、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を積極的に行い、「船員」の仕事が将来の職業の選択肢の一つとなるよう引き続き活動してまいりたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)